

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770100560		
法人名	医療法人 陽心会		
事業所名	グループホーム たかまーみの家		
所在地	沖縄県那覇市字大道94番3号 4階		
自己評価作成日	令和2年8月17日	評価結果市町村受理日	令和2年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4770100560-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和2年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、職員の資質向上のため医療福祉分野等の輪番制による勉強会を実施しております。職員が、事前に発表したいことを学び職員全員に報告するというシステムです。知識の共有化・情報の共有化が目的で毎月1回実施しています。又、当ホームでは隔月第二火曜日の午前中、専門スタッフによるアートセラピーを実施しております。これは、入居者様が創作していただき喜びを味わっていただき脳を活性化し認知症予防・治療をしていくことがねらいです。(現在は、諸事情によりサービス延期)又、入居者様の健康管理は、訪問診療・訪問看護により定期的に健康チェックを行っており異常があれば医師や看護師との連携で対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地の住宅街に位置しており、建物の1階に地域交流室を開設し、地域住民のサークル活動の拠点となっている。自治会にも加入しており、自治会活動や地域住民との交流を積極的に行っている。事業所の移転時に、理念の見直しを全職員で実施し、職員・利用者によりわかりやすい表現を取り入れた。毎朝、利用者と共に唱和している。理念が、職員の日々の行動の指針となっており、職員同士のコミュニケーションが深まることにより、利用者のケアの共有につながっている。食事については、3食事業所内で献立作成から調理まで行っている。買い物のための外出、調理準備など、利用者ができることを取り入れており食事を楽しむ工夫を行っている。介護計画とモニタリングについては、ケアマネージャーを中心に職員全体でチームとして取り組んでおり、介護計画の目標を日々のケア実践に活用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様による理念の唱和も9名の内7人が先導し、職員含む全員で唱和しています。	事業所の移転をきっかけに職員一人一人の意見を取り入れた理念を作成した。事業所名である「たかまあみ」や方言を取り入れたわかりやすい文章となっており、毎朝利用者・職員で復唱している。事業所名の「たかまあみ」は首里地区の方言で「めだか」を表している。利用者にとって親しみやすさを配慮した実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当建物1階に地域交流室があり、サークル活動等(琉舞、刺繍、ストレッチ体操、ヨガ、体操)で開放して、特に琉舞に関しては入居者様も参加して地域の方々と交流を深めています。又、自治会主催の敬老会・新年会等に地域の一員として参加しています。	移転後、地域の自治会に加入した。自治会長は、運営推進委員会の委員として、参加している。1階の地域交流室を開放し、サークル活動に提供しているが、この春からのコロナ感染防止対策のため、閉鎖中である。コロナの感染が落ち着き次第、再開予定となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症関連機関の連絡会に参加(沖縄県・那覇市)してイベント行事のパンフレット・チラシなどを近隣住民・地域交流室を利用している方々に配布しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の年間6回の開催は実施できている。構成委員は、那覇市役所職員、地域包括支援センター職員、他のグループホームの地見者、地域住民代表、入居者様本人、民生委員、家族等が参加して2ヶ月に1回開催しています。	昨年度10月から今年度8月まで6回の内、3回の運営推進会議開催を確認した。4月以降は、コロナ感染防止のため職員と入居者で実施し、家族や行政等については、文書での報告を行っている。毎回の会議において、期間内の事故についての報告が行われ、改善策についてアドバイスを得ている。前年度の外部評価結果について会議内での報告が確認できなかった。	外部評価について運営推進会議において結果報告の実施が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、認定手続きや待機者情報等の確認等で窓口を訪問すると共に、市グループホーム連絡会等に参加し情報交換をしています。市による集団指導やボランティアポイント制度事業の活用時に、行政から助言が得られ協力関係を築いている。又、最近、新型コロナウイルス感染拡大防止のための運営推進会議開催可否に関しての連絡等で連携を取っています。	那覇市との関係については、入居者の空き状況について情報共有している。研修等についての情報共有を行っている。市の主催であるボランティアポイント制度を活用し、該当ボランティアを受け入れている。4月以降は、コロナの影響により参加を制限しているため、早期の再開を目指している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない取り組みを行い定期的に勉強会を行っています。さらに、理解を深める為に、玄関入口・トイレ・食堂ホールと身体拘束廃止にむけての五つの方針を全職員が見える所に掲示している。しょう	管理者が講師となり、職員に対しての勉強会を実施している。玄関近くに管理者の事務机を設置し、利用者の見守りを実施している。職員間の合言葉として、「ラウンジゼロ」を活用し、利用者が過ごす時間の長いラウンジに職員が常に滞在することを意識づけている。勉強会による身体拘束の理解を図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が、沖縄県権利擁護推進員養成研修を受講し、高齢者虐待及び権利擁護について職員に対して3ヶ月に1回の身体拘束の研修に加えて実施している。又、介護職員のストレスを一人で抱え込まないように、情報共有、意志疎通の為に不定期に話し合いをする。	利用者への不適切な対応の要因について、職員のストレスを課題に挙げている。管理者をリーダーとして、職員間の声掛け、情報共有等、職員のストレス軽減に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について深く学ぶ機会を、これから勉強会に加わっていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、重要事項をしっかりと説明し、利用開始にあたり不安や疑問等を聞きだし納得いただいて契約をするよう努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで意見交換ができる場を設けたり、意見箱や面会時に意見しやすい雰囲気作りを心がける。又、会話のなかで、悩みや困りごとなど聞き出せように取り組んでいます。	通常は、意見箱や面会時に家族の意見を収集している。コロナ感染予防のために面会制限を実施している現状では、電話を活用し、家族と利用者の交流を維持している。その際に利用者の様子を家族に伝えている。利用者については、外出についても制限があり、事業所内での活動になっているが、外出要望について、屋上に出ることや動画を見ることで対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、毎月の全体会議や朝・夕の申し送りの他、個別面談時に聞き取りを実施しています。例えば、休憩時間の1時間確保の要求あった為、全職員と話あった結果、1時間の確保ができました。	職員より、休憩時間のとり方について要望があり、勤務内での休憩時間を確保している。休憩時間は、屋上や地域交流室を活用している。職員間は、職名ではなく名前にさん付けをして呼び合うことを徹底し、話しやすい環境づくりを行っている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に働きがいのある職場環境づくりを努め、必要に応じて職員と面談を行っています。個々のスタッフの状況把握、勤務態度、就労条件の改善に努める。	健康診断については、法人内の病院において定期的実施している。インフルエンザ予防接種についても病院内で実施している。管理者は、職員が年休を取得しやすい環境や勤務希望を実現している。必要に応じて、職員と面談を実施し、課題についての早期解決を行っている、	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部・内部研修や勉強会に可能な限り参加するよう進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の認知症カフェに職員・当ホームの入居者を参加して行事の開催、ケアの方法等の情報交換を行っています。又、沖縄県グループホーム連絡会、那覇市グループホーム連絡会に可能な限り参加して知識情報の共有化をしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前相談時に家族が見学に来ていただいて、その後本人さんと家族と一緒に訪問して、まずは、丁寧に挨拶を交わし日常会話から入り安心していただけるよう心がけて対応しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時相談時に、ご本人やご家族の想いや希望に耳を傾けている。又、不安や要望の訴えがなくても、それを上手く引き出せるような話し方を心がけ安心していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談にて得た情報に基づき、再確認のために入居者とご家族の意見聞き、必要としている支援を見極めるよう努めている。ニーズの確認後、ケアプランに反映し同意を得た上でサービスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活、例えば食事や洗濯・掃除などを共に行い入居者様の残存機能を大切に互いに支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、状況報告を行っている。また、面会時間の制限を設けず、いつでも面会できるような環境をつくり入居者様とご家族支えていく関係を築いています。 ※現在は、緊急事態発令中なので面会は、自粛中ですが、電話等で状況報告を行っています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に散歩やドライブを計画し、馴染みの場所(栄町市場等)へ出向いています。 ※現在は、新型コロナ感染拡大防止のため自粛しております。	自宅に仏壇を残している利用者に対して、旧盆やお正月等の節目に自宅に戻り、お供えの支援を行っている。今年については、コロナ禍により外出が困難だったため、職員が代理で行い本人に報告をした。近隣の商店街になじみのある利用者については、定期的買い物に同行し、商店街の方との交流を支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	軽レク・軽体操に全員参加を促し、オヤツや食事時間には、気の合う利用者同士の席を配置し、居室に孤立している場合は、本人の意思を尊重しながら声かけを行い交流をうながしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の相談援助だけでなく、退去後であっても、随時相談を受け入れ支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の想いは普段の生活の中から聞いています。時々、居室で1対1になり本人から直接聞くこともあります。意思疎通の困難な方やご自身の意向が出しにくい場合、ご家族から聞き取りをしたり、ご自身の意向が聞き取りやすい環境を工夫したり仕草、表情等の変化など観察し職員間で話し合い把握しています。	家族からの情報収集や、入居時の情報を基に被簿の実践の中で、利用者との1対1の時間を確保し想いを引き出す支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や、ご本人との会話の中から生活歴や時代背景を確認しながら生活できるよう把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の意思を尊重し、個々の過ごし方心身状態、残存能力等の現状の把握に努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員、本人、家族の意見や、定期的に来訪する訪問診療・看護のアドバイス等の意見やアイデアを反映してより良い暮らしの実現に向けて取り組んでいます。	3か月に1回モニタリングを実施している。現在家族の訪問が制限されているので、モニタリング情報を家族を訪問し説明することにより、了承を得ている。職員間でのモニタリングは、日々の記録に残せるように工夫しており、ケアプランの目標に沿ったケア実践を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、個人記録をもとに、職員間で情報を共有し、状況変化への対応やケアの統一に努めています。これらの意見や提案等を介護計画の見直しに反映し、より良い介護計画の作成に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当建物は、2階(小規模多機能型ホーム)3階(グループホーム)4階(グループホーム)、3事業所間で合同の行事、イベント、敬老会、消防訓練等で合同での活動を積極的に取り組み、柔軟な支援やサービスの多機能化に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて情報・意見交換を行い、時には、地域を散歩しながら情報を得て有効活用する。又、地域包括支援センターへ連絡をとるなど活用しています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な医療機関の受診同行や訪問診療に立ち会い適切な医療が受けられるように、主治医には、指導アドバイスを受けています。	病院受診は基本的に家族で対応している。同行しない場合の受診時の情報は電話での聞き取り、書類は建物前で直接対応し情報共有している。訪問診療は4名が利用。訪問看護とも連携し利用者の体調管理を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護が週1回入り、色々な気づき、情報を看護師へ伝達し、相談を行いアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報提供、入院先の訪問や主治医、相談員との連携に努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針として、医療行為が生じた場合や看取りは出来ないことを契約時、家族に説明し了解を得ています。重度化した場合は、医師や家族と話し合法人として対応が図れるよう協力体制を整えています。	「看取り及び重度化に関する方針」「医療連携体制に関する同意書」の説明を行い利用者家族の意思確認を行っている。利用者自身の体調の変化、不調に際して利用者及び家族に不安がないよう都度情報交換をおこない法人で協力・連携できる体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあり、急変や事故発生時には対応できる体制である。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に2回実施し、地域の方への参加して頂いています。特に、消火器訓練は好評です。災害時の備蓄として法人で1000食と、事業所内で携帯用ガスコンロ、レトルト食品、缶詰、3日分、特に水に関しては、7日分ほど非常用として管理しています。	年2回(昼夜想定)の訓練を実施している。地域住民として参加した近隣の床屋から「消火器を初めて使った。参加して良かった」と評価も得られ近隣との良好な関係と防災意識を共有できている。エレベーター使用せず階段での移動をすることで災害時での想定や困難さを職員がイメージし普段の危機管理に活かすようにしていると意見もあった。備蓄の食品も定期的に入れ替えを行っており日頃の意識づけが定着している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ目線でゆったりと丁寧な言葉かけに努めて、入居者様の人格を損ねないケアを心がけています。ケア会議、勉強会等でコミュニケーション方法や、心理状況などを把握し実践につなげ対応しています。	ハード面の事情からトイレの間仕切りカーテンの仕切りとパーテーションを活用し二重構造にし可能な限りのプライバシー面へ配慮している。「なーなーゼロ」と「声かけ徹底」を掲げ職員同士でのなれ合いに留意し利用者への態度や言葉が適切か意識することを実践する工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、出来る限りご本人を尊重した支援を行い、判断に迷うような場面では、複数の選択肢を提案するなど自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールの中で本人が気分がのらない時は、無理にせず体調に合わせた本人の意欲を引き出すような希望にそって支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思を尊重し、髪型や服装等日頃からおしゃれを楽しむ機会を楽しんでもらっています。入居者のなかには、食後、お色直しをする方がいます。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前の、下ごしらえや手指消毒を行い「いただきます」と、食後は「ごちそうさま」と声をだしています。明るく家庭的な雰囲気のもと、入居者様と職員共々同じ食事をいただいています。	3食を担当職員が中心となり作っている。利用者も和え物など下ごしらえ、食器洗いを担い調理と片付けに参加し生活としての食事できるよう工夫している。食事中には会話をしながら職員と利用者で楽しい雰囲気づくりを行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事摂取量をチェック表に記録して、ご本人の状態に合わせた食事形態、好み、栄養バランスの工夫をした支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は、見守りにて磨き残しや残渣物ないかチェックし、困難な方は職員が介助を行い、口腔内を清潔に保っています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、排泄リズムを把握して声かけし、日中は、9名の内8名はトイレでの排泄を行っています。夜間は、入居者の状態に応じてポータブルトイレでの排泄も支援しています。	排泄チェック表に日々の排泄記録を個別記載しており排泄のリズムやパターンを把握している。適切な時間間隔を考えて排泄の言葉かけを行い排泄を促すタイミングを見計らい支援する体制を職員同士で意識している。排泄に関する勉強会を行い知識技術を習得している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃、消化に良い食事を心がけて食事内容の工夫をした、運動に関しては、体調が良い時に通路を往復したり、ステップ台にて下肢筋力を鍛えて無理のない運動で支援しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、午前中に入浴を実施し(週2~3回)本人が、はいりたくない気分の時は、午後に戻したり、気の合う職員に変え、個々にそった支援を提供しています。	同性介助を実践している。利用者の意向を尊重し体調に配慮しつつ入浴できるよう時間変更柔軟に対応した支援の工夫をしている。利用者との相性の良い職員を把握して対応することで羞恥心や気持ちの負担が軽くなるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不穏で眠れない時や、落ち着きがない場合は、入居者様の側により話を傾聴し、頷いたり等しながらコミュニケーションを図る。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルのもと訪問看護師の指導・支持を受け、夜勤担当者が利用者ごとに薬を分け、投薬の際には担当者が、再度チェックし薬の取り違えがないようにしています。又、食後の口腔ケアの際に口の中に薬が残っていないか確認をしています。	服薬マニュアルを作成して薬保管場所の壁に掲示して職員が目視できる工夫をしている。薬の管理やセットを行っている。2人目、3人目の職員による薬の服用者名と薬内容の照合を行う。また都度服用し終えた空の袋を保管して最終確認を徹底し職員で危機管理の意識を高めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方、数字並びが好きな方、かるたが好きな方等個々の楽しみを把握し職員と共に楽しんで過ごしています。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の空気に触れ、自然を楽しむため、週1回は近隣の公園に出かけています。時には当ホーム建物の屋上にてベンチに座り、モノレールの往き来をみながら会話を楽しんでいます。 ※現在は、諸事情により自粛中です。	元一人暮らしをしていた利用者の希望として旧盆が近づく時期には発語による意思表示がなくとも行動や動作から心情を読み取り、旧盆期間中に一時帰宅し仏壇に手を合わせる機会をつくる個別支援をしている。団体としての外出先として選択する場所も五感が刺激できる近隣公園を活用し、建物の屋上を使用することもある。利用者の希望を反映し「娘が昔働いていた」という市場に足を運んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金は家族に管理をお願いしています。家族がいらっしゃらない方は、後見人が管理しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より当ホームに電話をかけたり、入居者様より電話したいということで電話をして会話を楽しんで安心した表情になる。又、中には、家族さんと日記を交わしている方もいます。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境のもと、みんなで歌を唄ったり、早口言葉を大声で言ったり、季節ごとの行事の飾り付けをみんなで会話を楽しんで居心地よく過ごせるよう工夫をしています。	画像を通して共有空間を確認。台所と水回りは家庭のそれを想像させる自然なつくりとなっている。飾りつけを利用者と職員が共同で作業し七夕や正月、クリスマスなど季節を身近に感じる環境づくりを行っている。食堂スペースに常に職員が配置できるよう共通の「ラウンジゼロ」というテーマを元に職員同士が気配り、言葉かけを意識して工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールで、気の合った方同士お茶を飲みながらくつろいだり、居室で一人で景色を眺めたりしながら個々で思い思いに過ごせる工夫をしています。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具を利用して心地良い環境づくりをしています。又、中には自分の化粧道具をもってきて食後のお色直しを居室でする方もいます。	画像を通しての居室には個人の持ち込み家具の洋服ダンスや壁に掛けられた写真の数々が見受けられる。各居室に設置している温度計にて快適な居室環境づくりを図る工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当ホームは、死角が少ないため、いつでも入居者様の状況把握できています。居室やトイレ等には目印をつけ見守りや誘導を行いながら安全を確保した生活が送れるよう努めています。		

目標達成計画

作成日: 令和 2 年 11 月 17 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	前年度の外部評価について運営推進会議での報告が確認できなかった。	外部評価については、運営推進会議において内容を具体的に結果報告する。	外部評価結果報告を具体的に運営推進会議時に報告し議事録にもしっかりと記入し作成する。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。